



「公共工事等における新技術活用システム」の本格運用について

Home

平成18年7月5日

<問い合わせ先>

大臣官房技術調査課

(内線22343)

大臣官房公共事業調査室

(内線24295)

TEL:03-5253-8111(代表)

国土交通省では、平成13年度に「公共事業における新技術活用促進システム」を創設し、平成17年度には、実績の少ない新技術の活用の促進等を図るため、現場での確実な試行を実施し事後評価を行うよう、再編・強化して、新技術の公共工事への活用を促進してきました。

今般、暫定運用の結果や新技術活用の実情等を踏まえ、有用な新技術の活用促進と技術のスパイラルアップを目的として、これまでのシステム全体を事後評価中心型に再整理し、「公共工事等における新技術活用システム」として平成18年8月1日より本格運用することとしました。

これにより、民間における新技術開発の促進や優れた新技術の活用による公共工事の品質確保、コスト縮減等が期待されます。

- [本格運用のポイント](#)



- [公共工事等における新技術活用システム](#)



PDF形式のファイルをご覧いただくためには、Adobe Acrobat Readerが必要です。
右のアイコンをクリックしてAcrobat Readerをダウンロードしてください(無償)。

Acrobat Readerをダウンロードしても、PDFファイルが正常に表示されない場合はこちらをご参照下さい。



<本格運用のポイント>

◆ 技術が促進され、よい技術が育成し、社会に還元されるスパイラルの確立を目指します。

① 有用な新技術の活用促進を図るため、事後評価の実施の徹底するものとします。

また、事後評価の結果を中心とした NETIS※に再構築します。

※ NETIS :国土交通省が運用している新技術情報提供システム。平成10年度より運用を開始し、平成13年度より一般にも公開。現在、約4千件の新技術情報が登録。

<http://www.kangi.ktr.mlit.go.jp/RenewNetis/index.asp>

② 様々な形態の新技術活用を体系化（大規模工法を試行・評価し、活用する仕組みも位置づけ）します。

③ 技術の試行・評価から活用までの道筋（技術のスパイラルアップ）を強化します。

◆ このため、「新技術活用システム」を以下のように再構築し本格運用します。

① 事後評価の実施の徹底

新技術の試行・活用を行った後、必ず事後評価を実施することになります。

② 技術評価の情報を主体に再構築

NETIS を、事後評価を受けた技術の集まりである NETIS（評価情報）と、従来の申請情報の集まりである NETIS（申請情報）に分け、NETIS 全体を NETIS（評価情報）中心に再構築します。

③ 活用方式の追加

自社の請負工事等において、請負者の申請により活用等し、事後評価を行う「施工者希望型」を新たに加え、技術難易度の高い工事や大規模工法等における新技術の提案について受け入れることができるようになります。

④ 申請者・請負者へのインセンティブの明確化

技術のスパイラルアップを促進するため、有用な技術については「活用促進技術」、「推奨技術候補」、「推奨技術」として選定し、工事成績評定への判定や総合評価方式での加点等、工事等に活用することによるインセンティブを明確にします。

⑤ 設計段階でのインセンティブを明確化

事後評価を踏まえ、従来の技術に比べて活用の効果が極めて優れている新技術については、設計段階において比較検討するようにします。

公共工事等における新技術活用システム

表彰制度

- ・ものづくり日本大賞
- ・国土技術開発賞

技術開発者を支援する制度

- ・建設技術審査証明
- ・大学等による技術審査 など

競争的資金等による成果の実証

- ・競争的研究資金
- ・国総研、土研等による共同開発 など

新技術活用システム検討会議
(本省に設置・産学官で構成)

- ・新技術の活用動向の把握
- ・新技術活用システムのあり方などの活用方策の検討等
- ・推奨技術の選定

発注者

発注者指定型

- ・直轄における現場ニーズ・行政ニーズにより、必要となる新技術を発注者の指定により活用し、事後評価を行うタイプ

施工者

申請者(開発者)

試行申請型

- ・成立性を確認する必要がある新技術を対象に、民間からの申請に応じて試行及び事後評価を行うタイプ
- ・実績がある場合に事後評価のみを行うこともある

施工者希望型

- ・自社の請負工事等において、請負者の申請により試行または活用し、事後評価を行うタイプ

フィールド提供型

- ・現場ニーズ等により民間から新技術の募集を行って、フィールドを提供し、事後評価を行うタイプ

New 4
申請者・請負者へのインセンティブの明確化

有用な技術へのメリット

請負者(工事における新技術の採用による)

- ・総合評価方式への加算
- ・工事成績への加算

申請者(開発者)

- ・活用促進技術・推奨技術候補、推奨技術として選定、公表

New 2
技術評価の情報を主軸に再構築

NETIS(評価情報)

事後評価の結果

- ・技術の成立性
- ・技術の活用効果(経済性、工程、品質・出来形、安全性、施工性、環境)
- ・技術の全体評価

事前審査の結果

NETIS(申請情報)

New 5
設計段階でのインセンティブを明確化

有用な技術へのメリット

申請者(開発者)

- ・設計段階での工法比較対象技術となる

新技術活用評価会議(整備局)
(地方整備局等に設置:産学官で構成)

(独)土木研究所等
関係研究機関

技術の確認

- ・技術の通用性、経済性、安全性、耐久性に關する確認(必要に応じて)

技術の事前審査

- ・試行の可否を審査

活用する場合

技術の事後評価

- ・技術の成立性、優位性、安定性、現場適用性を評価

New 1
事後評価の要領の徹底(評価手法・要領の徹底)

・新技術の活用等
・活用等に係る調査

技術開発相談窓口
(技術事務所等)

- ・書類審査
- ・新技術概要説明資料
- ・詳細説明資料等

登録相談・受付
情報(申請情報)に登録

申請者からの技術情報(申請情報)に登録

申請

申請

応募

書類審査

- ・申請書類等
- ・応募書類等

整備局・事務所等

技術改善のサイクルを期待

評価結果の通知

技術改善のサイクルを期待

発注

活用する新技術の検討

事後評価結果をNETIS(評価情報)に掲載

技術情報の検索(現場ニーズ等)

NETIS(申請情報)

登録相談・受付
情報(申請情報)に登録

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請

申請